

作成プロセス

1 主要実施内容の解説

- ①是正対象は問題発生時点に現場へ行く:現場観察5Mと5W1H、5Why?による解析と事実確認十原理図化によるメカニズム解析 → 見える化解析～原因除去対策へ
- ②予防対策は原理図を明確にする:完全生産の形でチェックリストをつくり現場確認～不良発生予備軍となる不安・ヒヤットの撲滅 → 危険度を評価ハザードMAP化
- ③新製品対象製品はDR対策 → 全体構成と個々の部品構成の関連・機能見える化へITシミュレーションなど(CAEなどで事前確認見える化へ)

2 作成プロセス

1.経営へのインパクトの理解
(高い問題意識を全員が高く持つ)



2.宣言の公開から総点検の推進

ケガ、地球環境問題、設備故障などと同じく、予防を前提に 発生防止策展開へ



3.現主義でのづくりのプロセス総点検

現場へ出て、現物・現象をみて、現場・現物対策
対象は5M+I(人、方法、計測、設備、物=設計十情報と管理)

「不良発生メカニズム解析」



4.得られる効果算定～公開(活動のアウトプット明確化)



5.次に改善「問題」一対策一改善効果の一覧化